

令和4年度 特色ある道徳教育推進校

御宿町立御宿中学校

研究主題

「考え、議論する道徳」の実現に向けた道徳科の研究
—生徒が主体的に取り組もうとする授業の充実を目指して—

取組1 「命の海洋教育」(横断的カリキュラム)の実践

各学年、各教科を通して、我が町「御宿」について学習を深め、地域との交流を行う。

「命の海洋教育」は、400年前に御宿であった人命救助と交流の歴史やライフセービングを中心に構成し、生命の尊さや郷土のよさに気付き、生命を尊重する態度を育み、郷土への誇りや愛着をもたせられるようにしたいという願いのもと取り組んでいる。

毎年4月の保護者授業参観の際には、「命の海洋教育」の一環として、各学年の教材による道徳の授業を展開している。

取組2 「考え、議論する道徳」の授業展開に向けた研修

(1) 先進校への視察

○視察を通して、授業に生かしたいこと

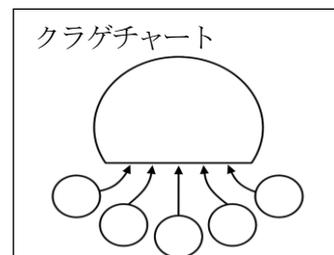
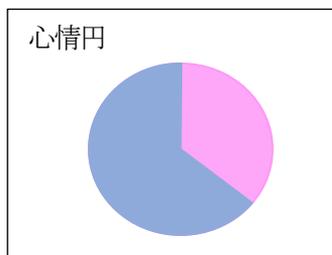
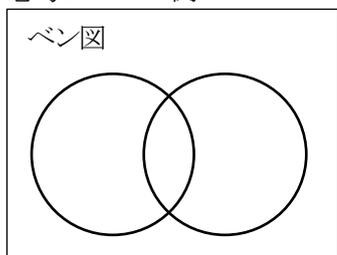
- ・話し合いを活性化させるために、授業形態を見直す。(小グループ、コの字の形態)
- ・思考ツールの活用と、ワークシートの形式を再考する。
- ・生徒の考えの把握のための机間指導や、事前の授業準備をする。
- ・教材に応じて、考えを可視化させるために、思考ツールを用いる。

(2) 校内研修会

ア 思考ツールの活用に向けた研修会

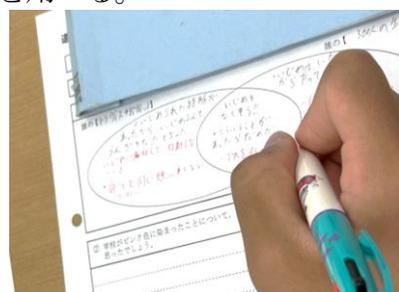
- ・先進校への視察後、校内で思考ツールの活用法についての研修を行った。
- ・思考ツールの種類が豊富であることや、ツールの使い方方で自分の考えを整理していくことができるのだと確認した。
- ・ワークシートや板書に、思考ツールやコミュニケーションボードなどを活用して、授業展開することを職員間で確認した。

<思考ツールの例>



イ 講師を招聘した研修会

『「考え、議論する道徳」にするために』と題して、講師を招聘して職員研修を行い、学びの場を設けた。



取組3 道徳授業の実践、指導法の検討・改善

(1) 学年体制で行う授業

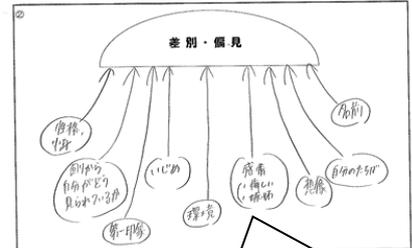
- ・授業形態等に応じて、T2として学年職員が入るようにした。T2は板書等を担当し、授業展開を補助した。
- ・授業後に職員間で授業のよかったところや改善点、困っていることについて話し合ったり、意見交換を行ったりして授業改善に取り組んだ。

(2) 相互授業参観

- ・互いに授業を参観することで、多様な授業形態やワークシート、視聴覚機器の活用の仕方などに触れ授業改善につながった。

(3) ワークシートの改善と実態把握

- ・思考ツールや吹き出しを使ったり、枠のみにしたりした。
- ・生徒が記入している間に、授業者は机間指導を行い、記入内容を確認し実態把握を行った。
- ・読み物教材を読む時間がかかる場合には、事前に登場人物を確認させたり、事前発問に答えさせたりし、意見交換を行う時間を確保できるようにした。



クラゲチャートの活用

(4) 校内授業研究

- ・校内授業研究を講師の先生方を招聘して計4回行い、「考え、議論する道徳」について、ご指導いただき、授業力の向上に努めた。
- ・議論する相手は生徒同士、先生と生徒、自分自身の3パターンがあることをご指導いただいた。自分の中でしっかりと考える時間を確保し、議論を深められるように意識して取り組んだ。

ベン図を使った授業



主な成果と課題

- 思考ツールを使うことで、生徒が発問に対して、様々な視点に立って自然と考えられるようになった。さらにそれを話し合いにいかすことで、生徒同士での議論の活性化を図ることができた。
- 思考ツールの活用は、授業者が生徒の意見を把握しやすくなり、指名計画を考え授業構成に役立った。
- 切り返しの発問で生徒の思考を深めたり、視野を広げたりできるようになるためには、生徒がどう考えるかを普段の生活の姿や事前の調査などから予測しておくことが大切であると同時に、発問自体の引き出しも多く持っていなければならない。
- 授業のねらいを焦点化し、そのねらいを達成するための手段として思考ツールがあることを意識することが大切である。授業のねらいに迫るために思考ツールが必要となったとき、どの思考ツールを使うのが有効かつ確かな判断ができるようになるためにはより多くの授業実践が必要である。

授業実践事例

中学校3学年A組 道徳科指導案

令和4年10月27日(木)

1 主題名

「生」と「死」を考える(関連:学習指導要領D-(19)生命の尊さ)

2 ねらいと教材

(1) ねらい

尊厳死を望む祖父とその意志を知りながら延命措置に同意した父母の葛藤を通して、「生きる」とはどういうことなのか考え、生命を尊重しようとする心情を育てる。

(2) 教材

「命の選択」(出典:「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は内容項目D- (19)「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」を受けて構成されている。

「生命の連続性」とは、今ある私たちの命は過去から脈々とつながってきたものであると同時に、未来の新しい命にもつながり、関わり合っていくことである。そして、「命の有限性」とは、生命にはいつか終わりがあるということ、その消滅は不可逆的で取り返しがつかないことである。それらについて理解し、自分の命を含めた生命あるすべてのものをかけがえのないものとし、大切にしようとする姿勢が「生命を尊重すること」ということであると考え。中学生の時期は、一般的には、比較的健康に毎日を過ごせる場合が多いため、自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は決して多いとは言えない。また、家族の在り方も変わる中で、身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験を持つことが少なくなっている。その一方で、最近では、新型コロナウイルスの流行により、病気で失われる命のことや、病気から命を救おうと奮闘する医療従事者の姿から、命について考えることが増えているのではないかと思う。命について考えさせられることの多い今の時期だからこそ、現代社会における新しい権利の問題にも関わる視点から命について考えることは、生命尊重に対する考えをさらに深めるための良い機会となると考える。

そこで、本時の学習において「尊厳死」という生命倫理に関わる現代的な課題をテーマとした教材を扱う。「尊厳死」というと、「死に方」の問題のように思えるが、本時では、「生きる」ということの捉え方について、生徒に考えさせたい。「生きる」とはどういうことなのか、生徒一人一人が考え、話し合い、意見を交流させることで、生命尊重への学びをより深めることもできると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

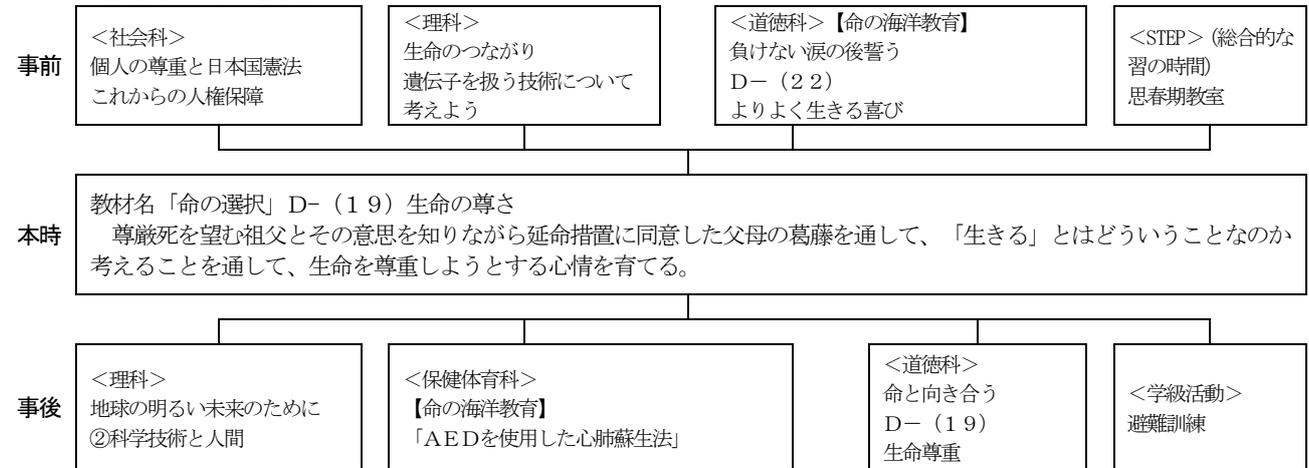
本学級の生徒は、本校の「命の海洋教育」などを通して、今まで「命」について考える機会を多く持ってきた。生死の「生」については考える機会があった一方で、「死」を題材にして「生命」について考えたことは少ないと考えられる。本学級の生徒の3分の2の生徒が核家族という家族形態で過ごす中で、身近な人が病気で苦しむような姿や、その人の死にまだ接したことがない生徒もいるかもしれない。社会科では、新しい人権について学ぶ中で、「尊厳死」や「安楽死」が「自己決定権」に含まれるのではないかと主張されており、議論になっていることを学んでいる。この「生命」に関する現代的な課題を、自分にも関わる課題として、自分の考えをもてるようにしたい。

4 展開

過程 時配	学習活動と主たる発問 ○発問 ◎中心発問	支援及び指導上の留意点 (○支援・◎評価(評価方法))	資料
導入 (5分)	1 「尊厳死」について知り、今日の学びのテーマを確認する。	○事前アンケート調査の結果を示すとともに、「尊厳死」について、言葉の意味を説明し、本時の内容につなげる。	スライド
展開 (7分)	2 「命の選択」を読んで考える。 ○もし、自分がこの「祖父」だったら、どういう気持ちで、「尊厳死」をお願いしたと思いますか。	○祖父が延命措置を拒否した背景には、家族への思いがあり、単に生きることを諦めているわけではないことを確認する。 ○教材に書かれていることのみにとどまらず、家族へのどのような思いがあったと思うかなどを聞いていく。	掲示物

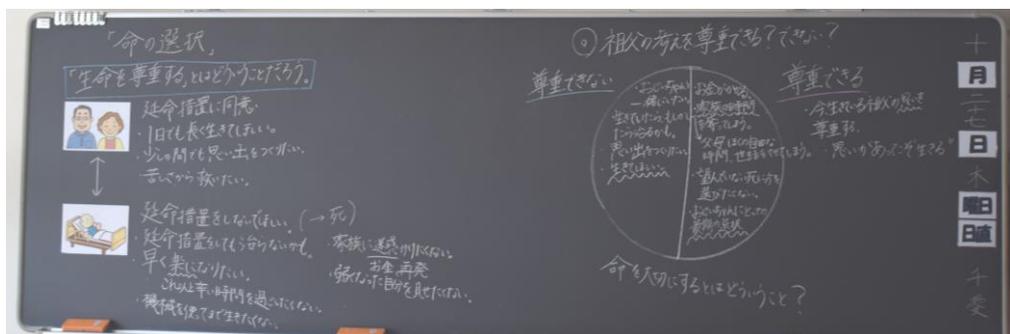
(20分)	◎自分が「父母」の立場であったら、「尊厳死」を望んだ「祖父」の考えを尊重できると思いますか、できないと思いますか。 映像部分参照	○ワークシートの心情円を使い、自分の立場を明らかにさせるとともに、その理由を書かせる。 ○書き終わったら、紙の心情円を使って、「尊重できる」「尊重できない」の思いの割合を示しながら、互いの考えを話し合わせる。 ○「祖父の意志を尊重する」ことは「生命尊重」になるのかを尋ねることで、「生命尊重」に対する様々な見方を引き出せるようにする。	ワークシート 心情円
(10分)	○友達の考えを聞いて、どう思いましたか。	○友達の意見を聞いて、さらに考えたことや心情円の割合の変化などを、色ペンでワークシートに書かせる。 ○全体で、考えの変化があったところを聞き、さらに考えが深められるようにする。	ワークシート 心情円
終末 (8分)	3 本時の振り返りをする。 ○今日の授業を振り返って、「生命を尊重する態度」について考えたことをワークシートに書こう。	◎祖父の意思に反して延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章を通して、生命を尊重する態度について多面的・多角的に考えることができたか。(ワークシート・発言) ○「命」に関して、社会の中で、議論されていることが、「尊厳死」以外にもあることを示し、これから自分たちがその課題に向き合う必要があることについて考えさせる。	ワークシート

5 他の教育活動との関連



6 授業の様子

(1) 板書



(2) 生徒の様子

- ・心情円を使うことで、「尊重できる」という立場と「尊重できない」という立場の両方の側面から発問について考えさせることができ、二者択一ではない生徒の考えが見られた。
- ・視覚的に自分と友達の考えの違いを心情円で見比べることができ、話し合いの時に自然と質問をし合うなどし、意見交換する姿が見られた。